令和２年度　高松市病院事業会計決算の概要について

病院局　経営企画課

1　令和２年度収益的収支、現金・預金の状況

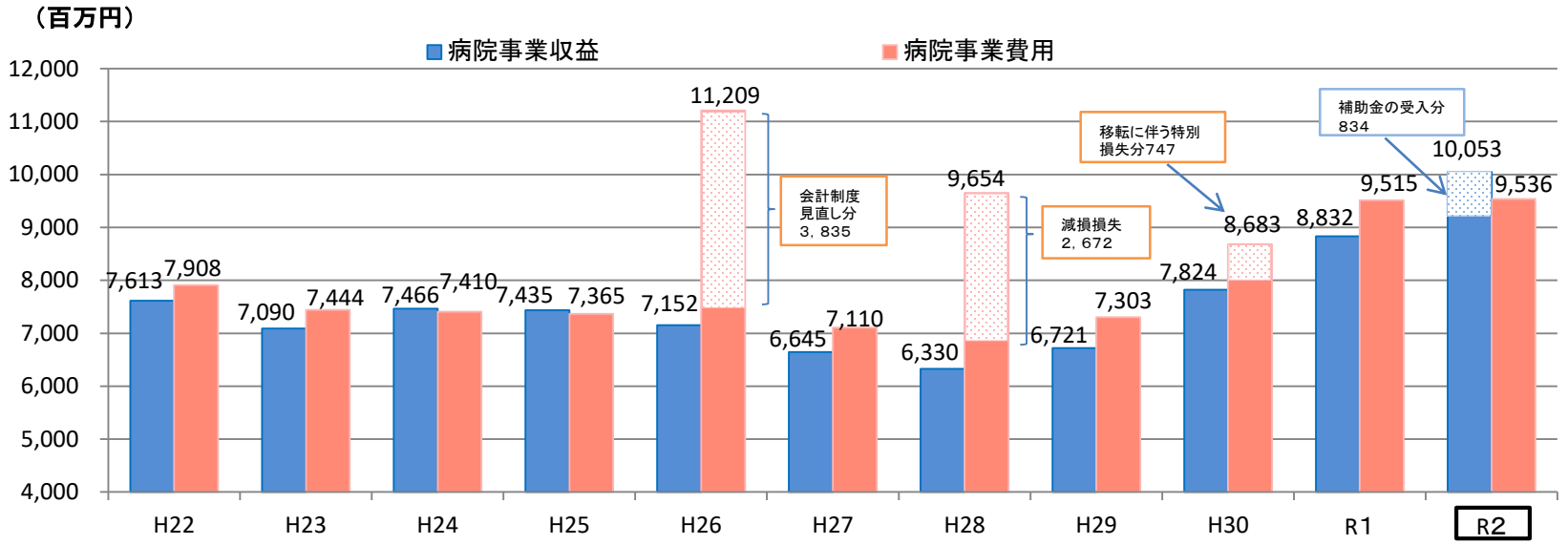
（単位：百万円）

区　分		みんなの病院	塩江分院	全体
収益	医業収益	7，115	351	7，466
	うち一般会計負担金	558	0	558
	医業外収益	1，797	459	2，256
	うち一般会計負担金	663	447	1，110
	附帯事業収益	—	15	15
経常収益　A		8，912	826	9，737
費用	医業費用	8，255	665	8，921
	医業外費用	393	18	411
	附帯事業費用	—	23	23
経常費用　B		8，649	706	9，355
経常損益　C=A-B		*263*	*120*	*383*
特別利益　D		308	8	315
特別損失　E		174	7	181
特別損益　F=D-E		*134*	*1*	*134*
純損益　C＋F		*397*	*120*	*517*

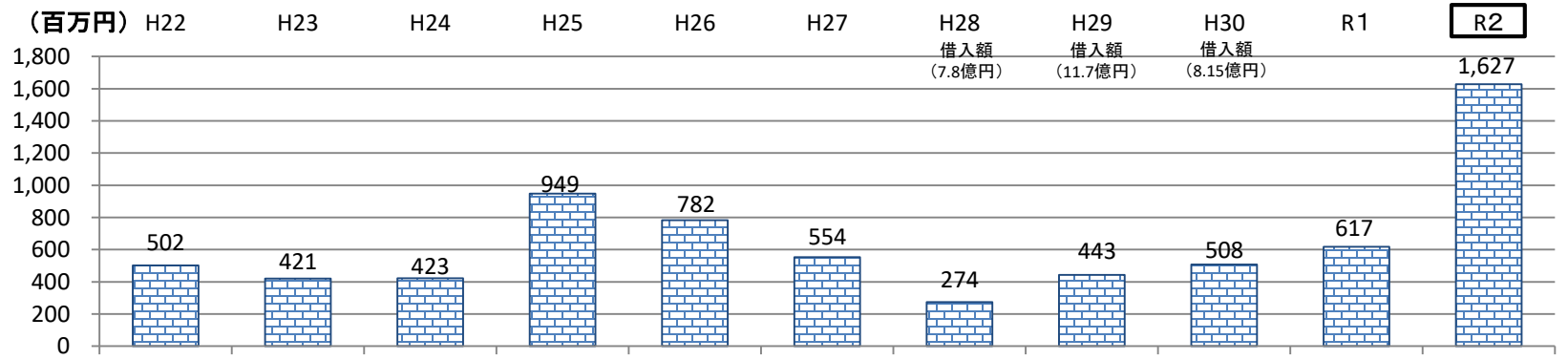
※税抜　※端数処理の関係上、合計と一致しないものがある。

現金・預金（年度末）	1，589	38	1，627

２　病院事業収益・費用の推移（病院全体）



現金残高

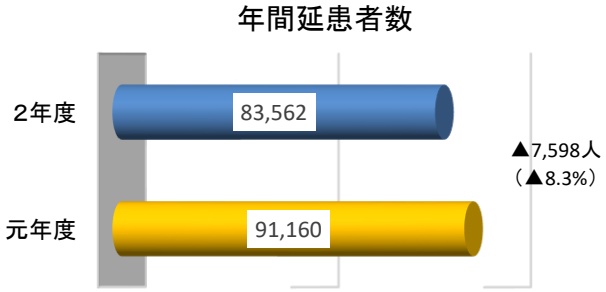


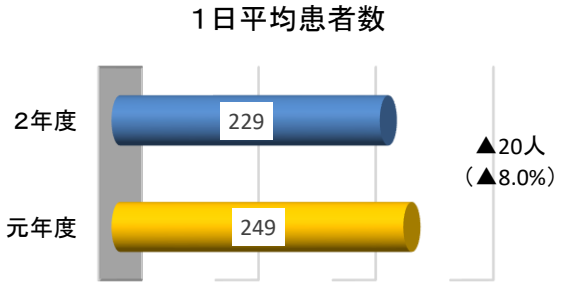
【分析と課題】
　新型コロナウイルス感染症の影響により医業収益が減少したものの、効率的な病床管理の徹底により、その減少を最小限に抑制したことや新型コロナウイルス感染症対応に係る補助金の受入れなどにより、経常収益が増加し、資金収支は黒字となった。今後、企業債や長期借入金の償還が本格化していくため、引き続き収入・支出両面において、改善に向けての取り組みを進め、現金・預金残高の確保に努める必要がある。

3-1　年間延患者数と１日平均患者数

みんなの病院

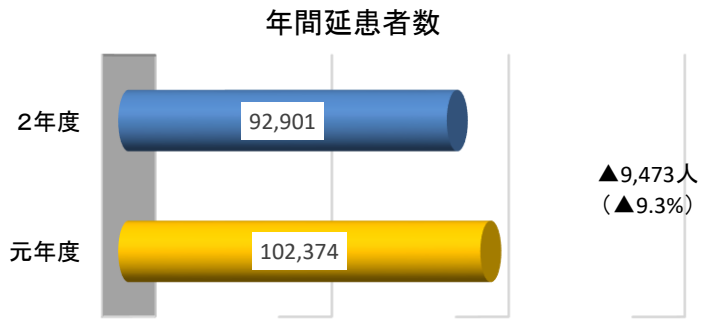
入院

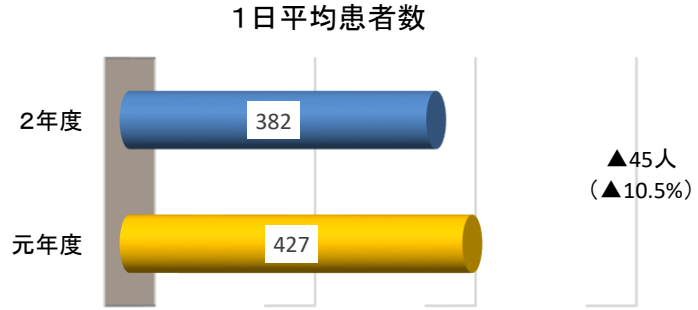




●新型コロナウイルス感染症対応に伴い、一部病棟をコロナ専用病棟としたことで、稼働できる病床が減少したこともあり、患者数は8．3%の減少となった。（令和2年度末時点　休止病床数‥36床）

外来



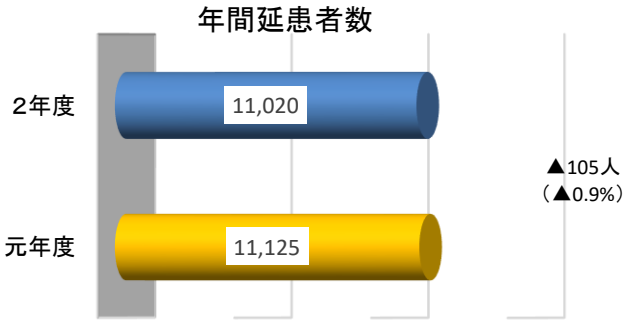


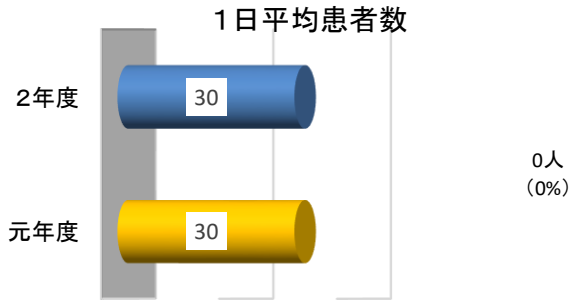
●新型コロナウイルス感染症による受診控えなどの影響により、年間患者数は9．3%の減少となった。

3-1　年間延患者数と１日平均患者数

塩江分院

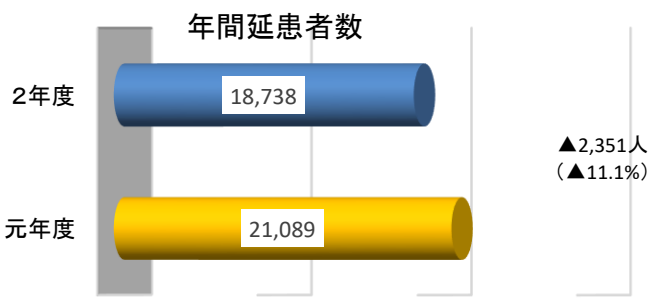
入院

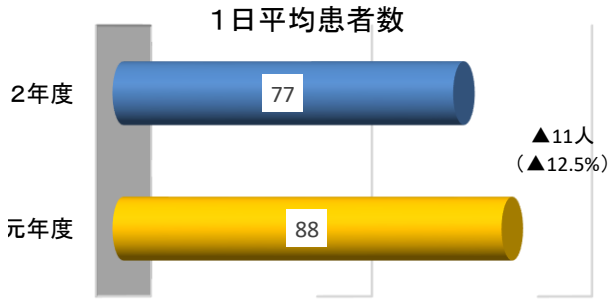




●塩江地区住民の減少や入院患者の施設入所などが影響するなか、積極的に他院からの受入れを行うことで、１日平均患者数は前年度を維持した。

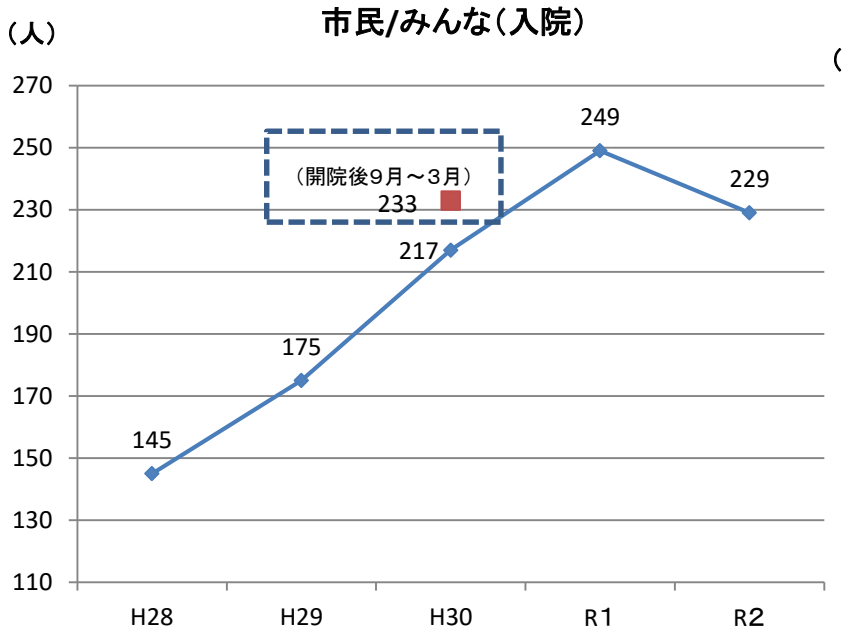
外来

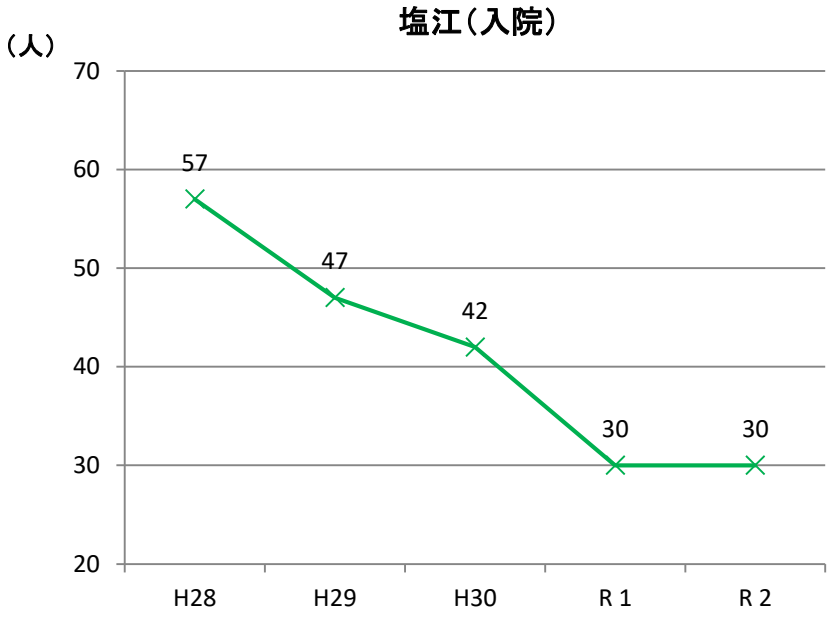




●新型コロナウイルス感染症による、受診控えの影響により、年間患者数は１１．１%の減少となった。

３－２　患者数（１日当たり）の推移
ア　入院（市民／みんな・塩江）

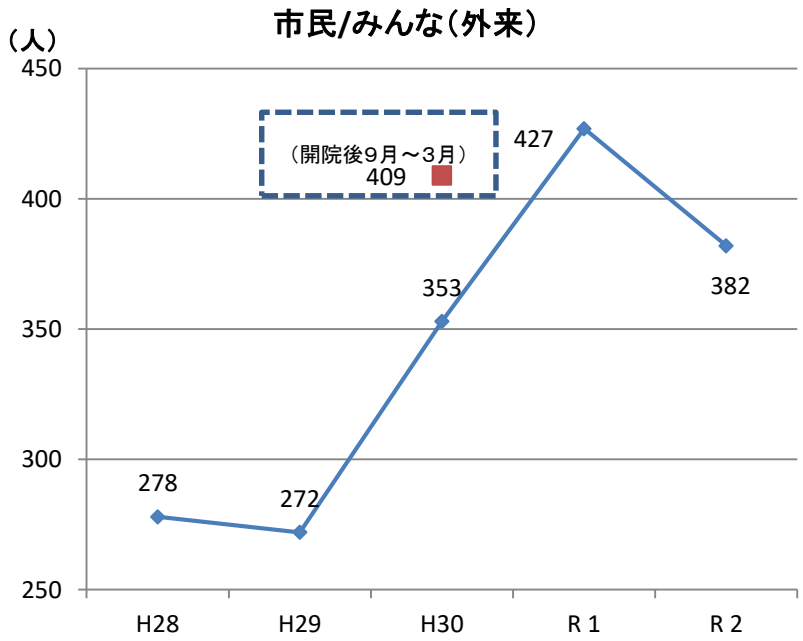


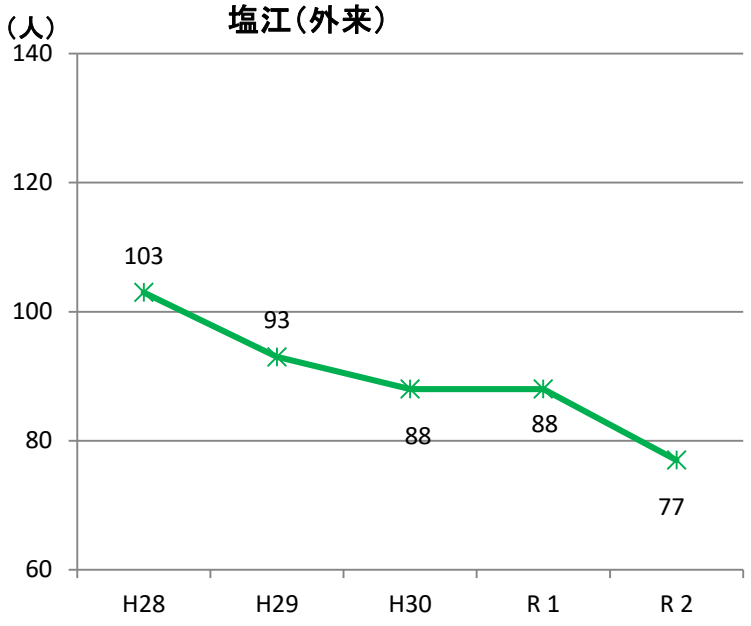


【分析と課題】
　常勤医師の増員が図られたことに伴う診療体制の充実に加え、できる限り救急を受け入れる取組を進めるとともに、地域の医療機関との連携強化に取り組んだことにより、患者数は、開院以来順調に増加していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は減少に転じた。
　引き続き、新型コロナウイルス感染症に対応しながら、効率的な病床管理や、地域連携の強化を図り、安定した患者数の獲得に努める必要がある。

【分析と課題】
　R2は前年度を維持したものの、患者数の減少傾向は、塩江地域の人口の減少のほか、入院患者の死亡や介護施設への入所などが影響しているものと考えられる。
　引き続き、慢性期医療を中心に、在宅医療支援病院として療養を必要とする患者を積極的に受け入れる中で、良質な医療サービスの提供に努める必要がある。

３－２　患者数（１日当たり）の推移
イ　外来（市民／みんな・塩江）





【分析と課題】
　入院と同様に患者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、開院以来初めて減少に転じた。
　引き続き、機能分化を推進しつつも、地域の医療機関からの紹介患者受入れの拡充や、救急患者の積極的な受入れなど、更なる外来患者の獲得に、取り組むことが重要である。

【分析と課題】
　塩江分院の外来患者数は、減少傾向にあり、今後も厳しい状況が予想される。
　これまで以上に、「地域まるごと医療」に取り組み、山間・へき地である塩江地区唯一の病院として、地域に根ざした良質な医療サービスの提供に努める必要がある。

４　みんなの病院の収益的収支

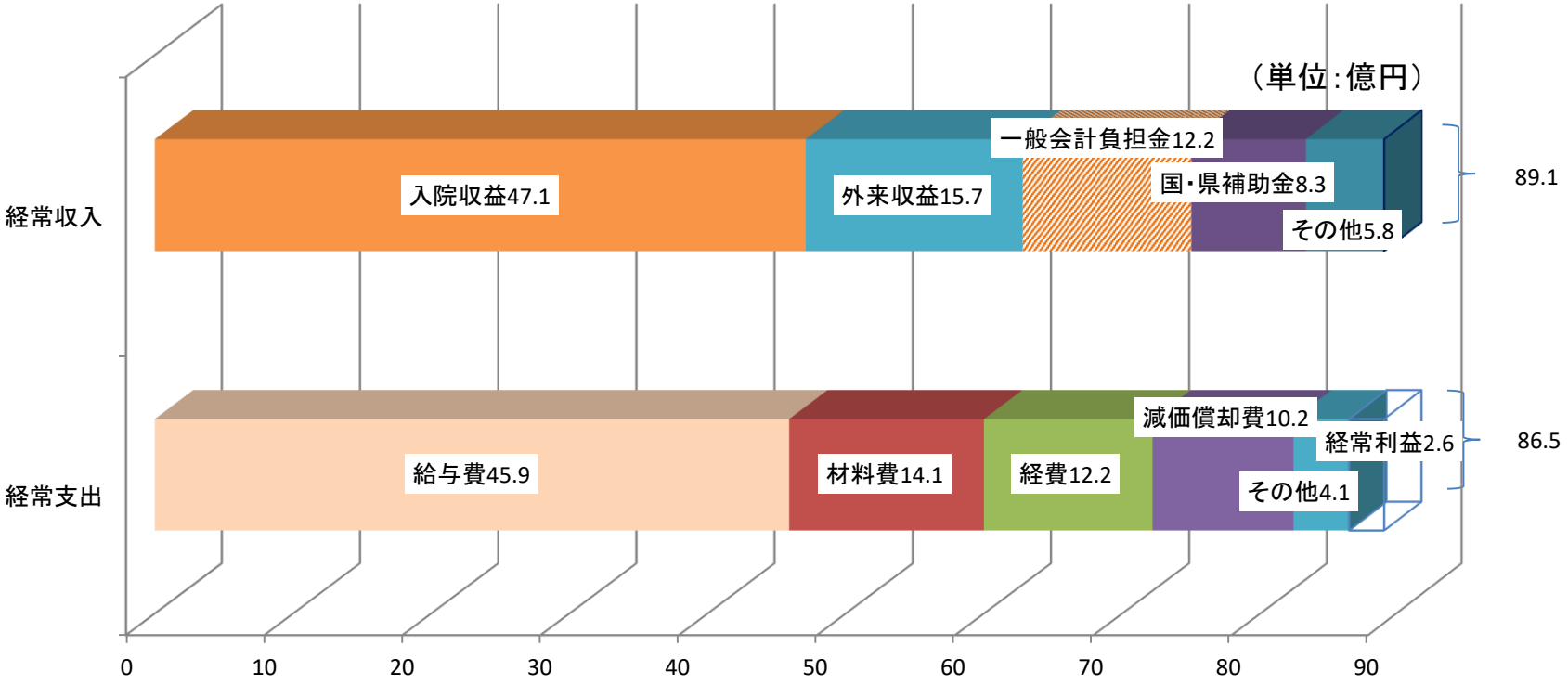
ア　前年度との比較

（単位：百万円）

区　分		R2	R1	差引増減
経常収益	医業収益	7，115	7，248	△133
	うち入院収益	4，705	4，823	△118
	うち外来収益	1，568	1，601	△33
	うち一般会計負担金	558	525	33
	医業外収益	1，797	861	936
	うち一般会計負担金	663	681	△17
	合計	8，912	8，109	803
経常費用	医業費用	8，225	8，384	△129
	うち給与費	4，588	4，747	△159
	（職員数：人【正規医師数】）	429【54】	415【52】	14【2】
	うち材料費	1，406	1，422	△16
	うち経費	1，219	1，089	129
	うち減価償却費	1，022	1，098	△76
	医業外費用	393	372	21
	合計	8，649	8，756	△108
差引		263	△647	910

※税抜　※端数処理の関係上、合計と一致しないものがある。
※職員数は、特別職を除く。

４　みんなの病院の収益的収支
イ　収益対費用

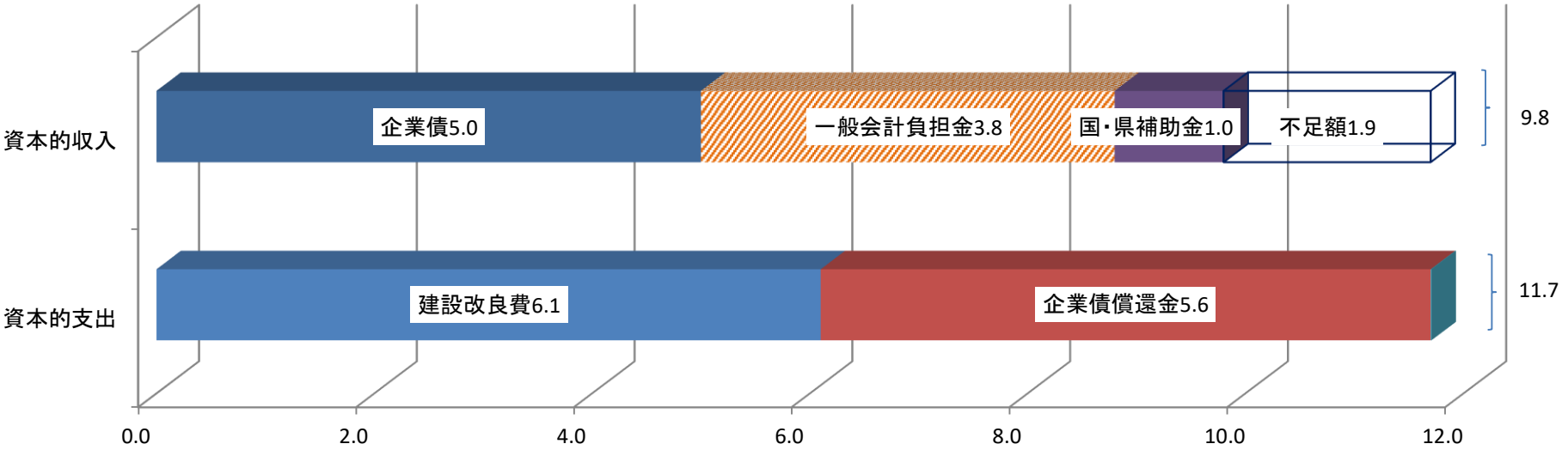


【分析と課題】
　みんなの病院の患者数は、開院から順調に増加していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、入院・外来患者数は昨年度と比較して、減少した。しかしながら効率的な病床管理などによる、診療単価の上昇などを受け、減収額を抑制したことや、新型コロナウイルス感染症対応に係る補助金を受入れたことから、経常収益は増加した。
　今後においても高い水準で減価償却費が推移することなどから、これまで以上に「良質な医療の提供」とともに「患者サービスの向上」に努めることはもちろんのこと、給与費や材料費、経費などの費用について、可能な限りの圧縮に努める必要がある。

５　みんなの病院の資本的収支

ア　収益対費用

（単位：億円）



イ　建設改良費の内訳

○医療機器購入　　6億600万円

手術支援ロボット（ダヴィンチ）	3億9，327万円	
医療画像情報システム	8，360万円	
CT撮影装置	4，169万円	
超音波画像診断装置	1，804万円	など

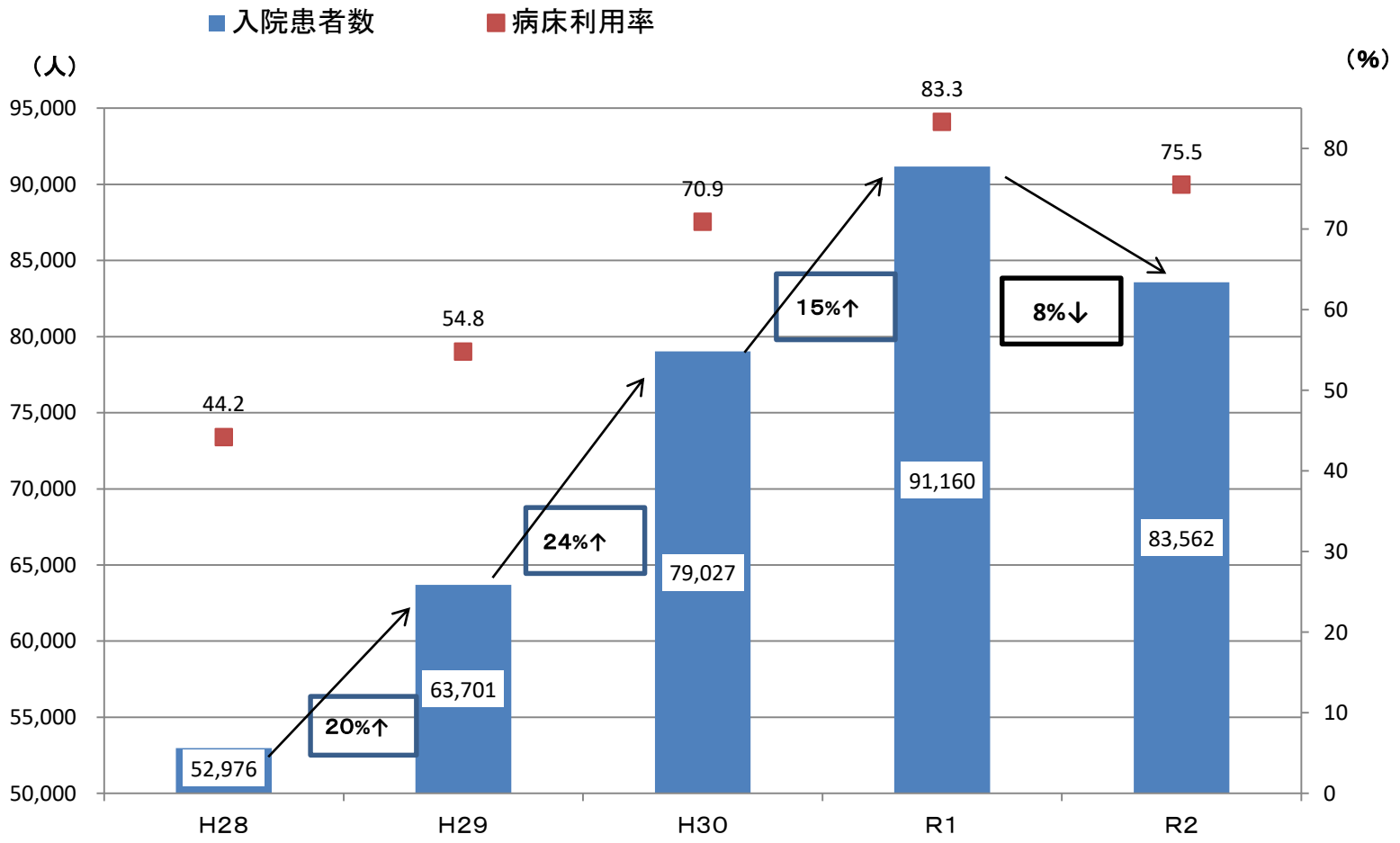
【分析と課題】

建設改良費については、その財源として企業債や一般会計からの出資金・負担金により賄われており、令和2年度における病院事業からの持ち出しは、1億9，000万円となっている。今後においてはみんなの病院建設等に係る企業債の償還が本格化することに加え、一般会計への長期借入金の償還も開始することから、資本的収支に係る不足額※がさらに拡大するため、収益的収支において現金を留保する必要がある。

※令和3年度（予算）不足額：2億434万1千円

６　入院患者数と病床利用率

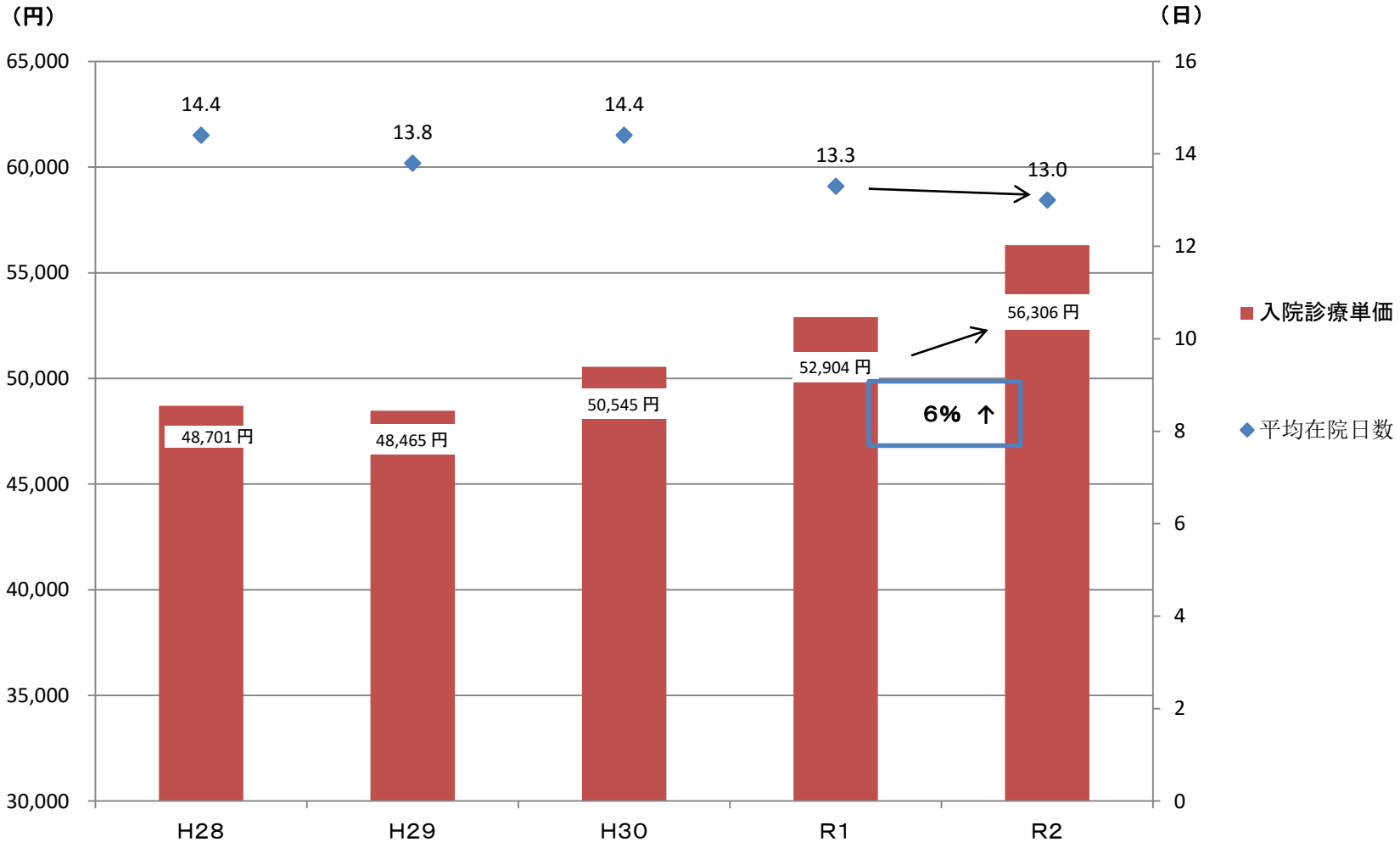
市民／みんなの病院



【R2分析】
R1に比べ1日当たりの患者数は新型コロナウイルス感染症の影響により8％減少した一方、効率的な病床管理の徹底などにより、診療単価は、前年度（52,904円）を上回る56,306円となったことから、**入院収益の減少を2.4%に留めた。**

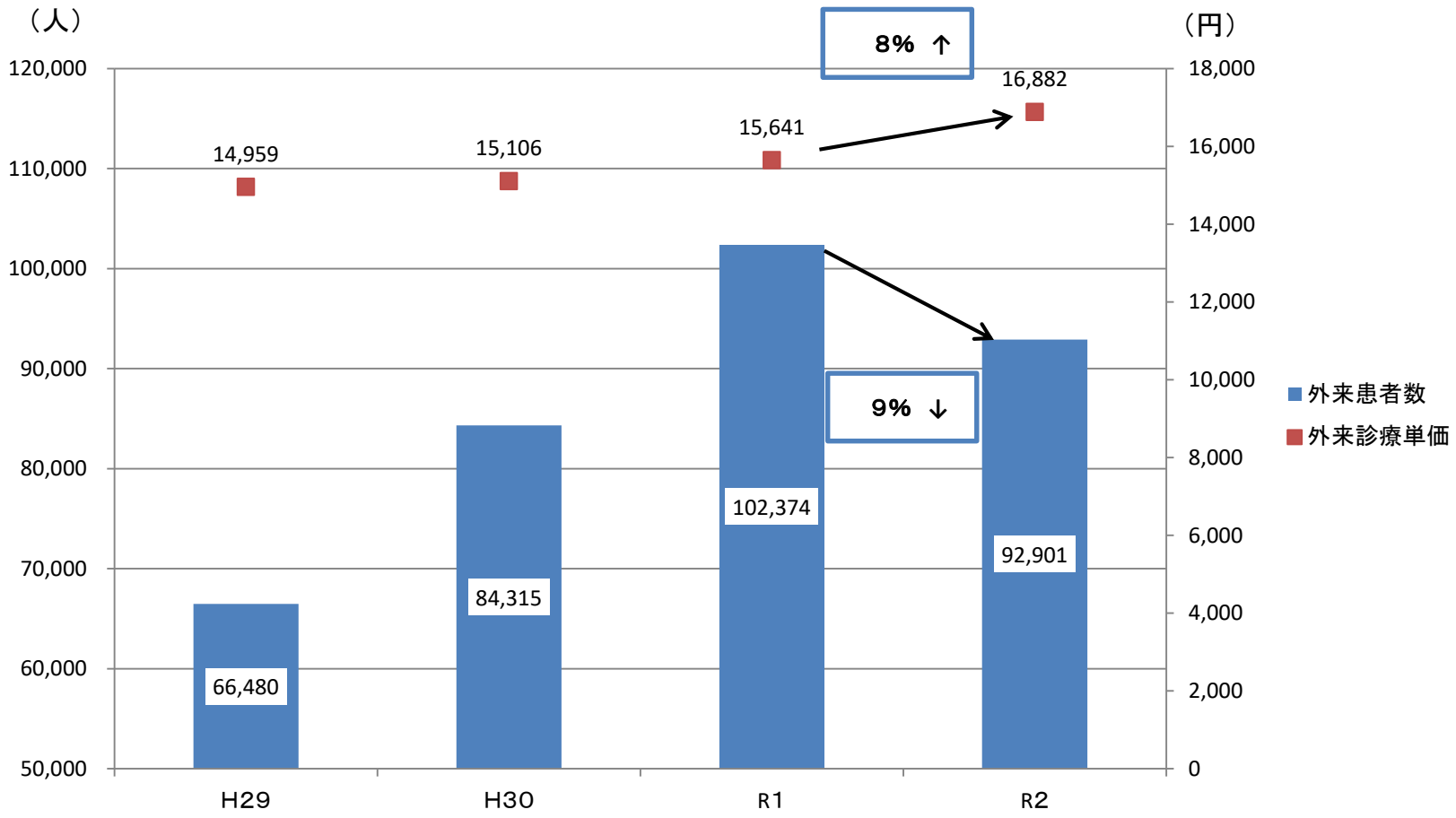
７　入院診療単価と平均在院日数

市民／みんなの病院



８　外来患者数と外来診療単価

市民／みんなの病院



※「高松市民/みんな」には、香川診療所分を含めていない。

【R2分析】
新型コロナウイルス感染症の影響により、患者数は前年度から9%減少したが、機能分化の推進により、診療単価は8%増加した。

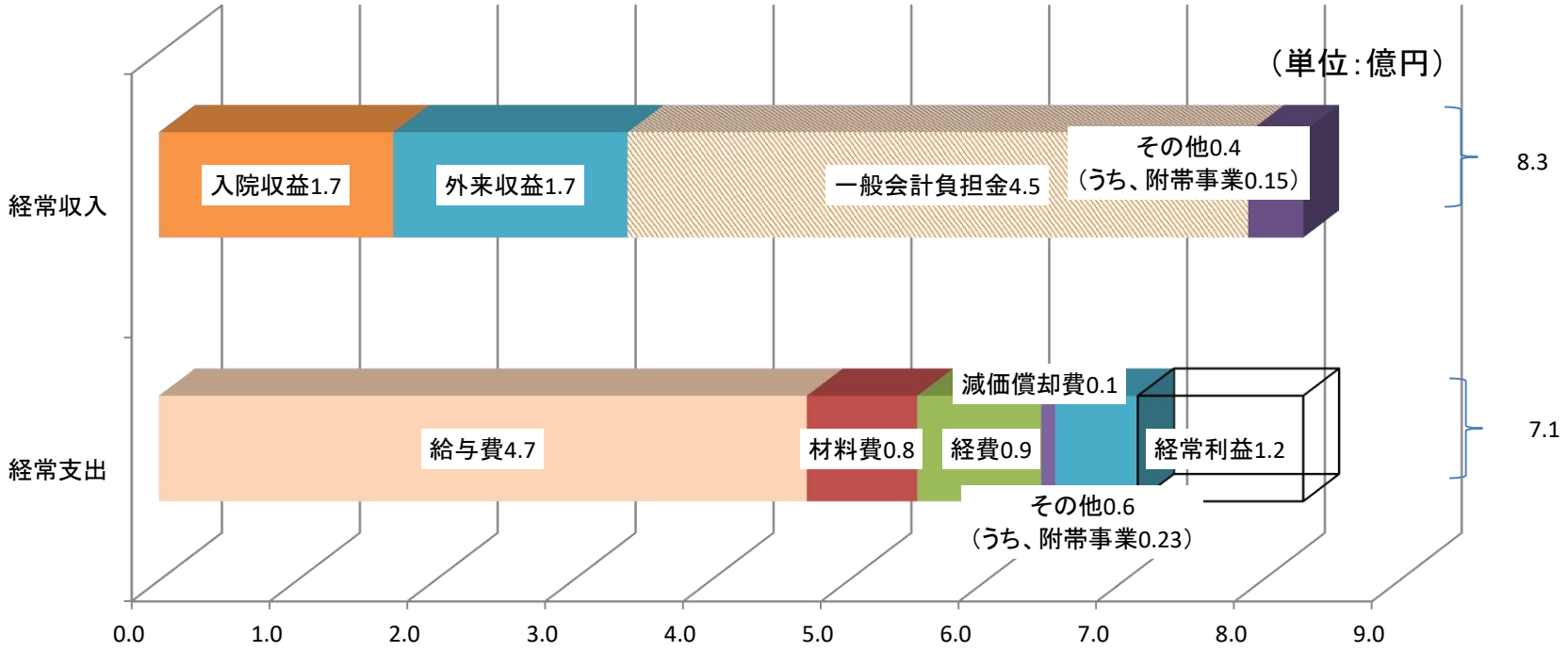
９　塩江分院の収益的収支

ア　前年度との比較

（単位：百万円）

区　分		R2	R1	差引増減
経常収益	医業収益	351	385	△34
	うち入院収益	174	187	△13
	うち外来収益	167	189	△22
	医業外収益	459	251	208
	うち一般会計負担金	447	244	203
	附帯事業収益	15	17	△2
	合計	826	653	172
経常費用	医業費用	665	659	6
	うち給与費	473	477	△4
	（職員数：人【正規医師数】）	37【5】	38【4】	△1【1】
	うち材料費	84	94	△10
	うち経費	95	71	23
	うち減価償却費	12	14	△2
	医業外費用	18	16	2
	附帯事業費用	23	22	1
	合計	706	698	8
差引		120	△44	164

９　塩江分院の収益的収支
イ　収益対費用

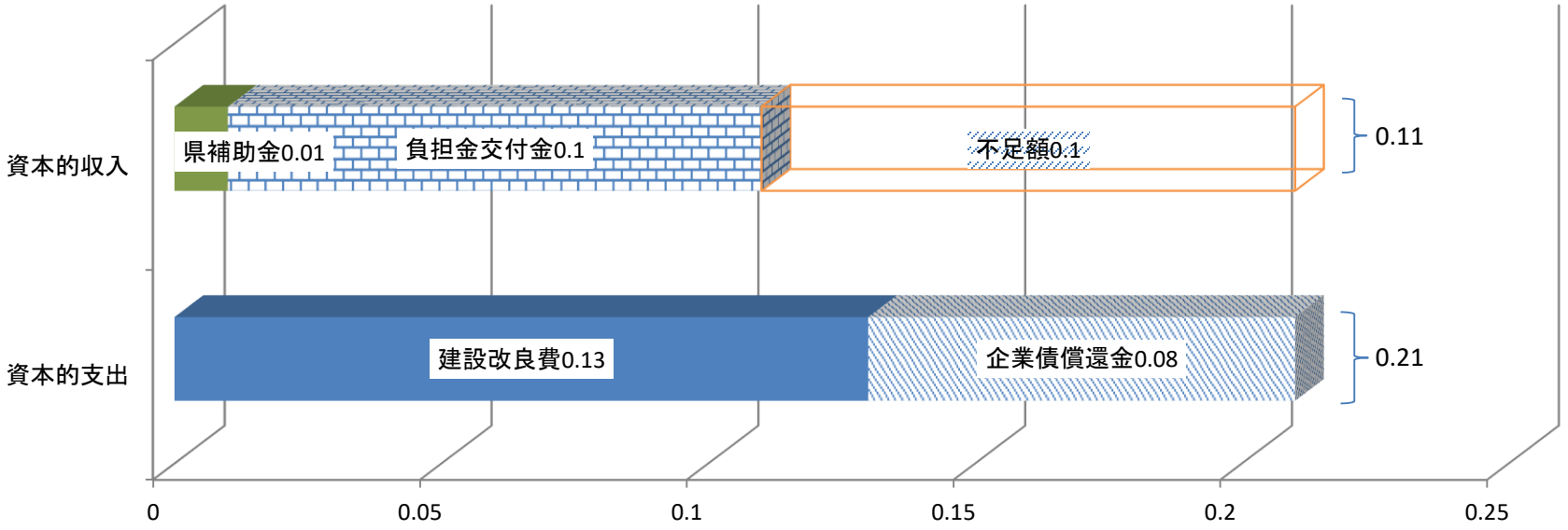


【分析と課題】
　過疎地域という地域性から、経常収入に占める一般会計負担金の比率は高い。
　また、入院・外来収益をもって給与費を賄えていない状況から、今後、運営のあり方を見直していく必要がある。

１０　塩江分院の資本的収支

ア　収益対費用

（単位：億円）



イ　建設改良費の内訳

○医療機器等購入　　４１万円
　　サーマルカメラシステム　　４１万円

○附属医療施設建設費　　１，２５２万円
　　基本計画の策定に要する負担金　　１，２５２万円